

# “核兵器は人類と共存できない”

「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」がノーベル平和賞を受賞した意義

2024年のノーベル平和賞は大方の予想を覆して、日本被団協に贈られました。広島、長崎の被爆者らが核兵器を再び使用させないための証言活動を草の根で続けてきたこと、それを若い世代が引き継いでいることが高く評価されました。

## 「ノーモア・ヒバクシャ」の訴え

日本被団協は、太平洋ビキニ環礁水爆実験を機に世界的に原水爆禁止運動が広がり、1956年に広島・長崎の被爆者で結成されました。

それまで声を押し殺していた人たちが原水禁運動に勇気づけられ、核兵器廃絶・原爆被害の補償の要求・被害の実相を自ら国内外に伝えることなどを目的に、いかなる力の前にも黙っていない覚悟で立ち上がり、「ノーモア・ヒバクシャ」を訴え続けてきました。

## 核の危機はそこまで

世界は今まさに、核兵器使用の危機が高まっています。被団協の田中さんは「想像してみてください。ただちに発射できる核弾頭が4千発もあるということ」と授賞式で述べ危機感を世界に訴えました。

核兵器で威嚇し、争いを拡大させるのではなく、手を取りあって永遠平和の実現に向けて対話をするのが政治の力であるはずで。しかし、日本は唯一の被爆国であるにも関わらず、核兵器禁止条約を批准せず、NPT(核不拡散条約)のオブザーバー参加さえ見送っています。

## 日本の役わり

日本は、「国際平和を誠実に希求」し「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永遠にこれを放棄する」と憲法9条に謳っています。受賞を機に核兵器廃絶はもとより、国際平和を率先して導く国であることが、日本の役割ではないでしょうか。

次の世代が安心して豊かに暮らせる社会をつくる責任が私たちにあります。命と平和をなによりも大切に政治こそ、強い政治です。

## 平和へのメッセージ

広島で生まれ、被爆した人の話を身近に聞いて育ちました。祖父は爆心地近くで被爆し、意識が戻ったときは全身ガラスの破片が突き刺さり、周囲は皆亡くなっていたとのこと。核兵器の要らない、平和な世界にしていきたいと思っています



(清水倫子)

私は長崎市内で育ちました。学校の平和教育で長崎原爆資料館を見学し、黒焦げになった少年の写真等大きな衝撃を受けました。戦争は何も産み出さず、日常が破壊されます。戦争は最大の人権侵害です。世界に核兵器は必要ありません！



(田中るみ子)

## 武器で平和はつukれない

2015年9月安全保障関連法が可決されて以来、日本は戦争ができる国への歩みをすすめる、世界では紛争が日々繰り返されています。軍事によらない平和の実現をめざし、ふくおか市民政治ネットワークで、平和へのアピールを行っています。

「平和」と「いのち」が最優先される社会の実現に向けてこれからも声を上げ続けます。

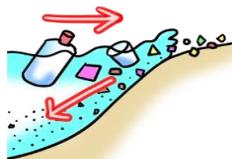


9月21日 宗像市にて

ふくおか市民政治ネットワーク・北九州は、理念の違いから、ふくおか市民政治ネットワークから離脱しました。名称も変更し、別の団体になりました。

## 私たちがゴミを拾う理由

毎月一回仲間と一緒に、ゴミ袋片手にゴミを拾っています。拾うゴミの多くはプラスチック製品です。放置すると川から海に流れ込み海洋生物の生態系に悪影響を与えます。またプラスチックは自然界では分解されず、波や紫外線などにより劣化し、回収不能の5mm以下のマイクロプラスチックとなります。



また、地上で小さくなったプラスチックは大気中に漂います。近年、マイクロプラスチックが人体からも検出されたと報告がなされ、健康への影響が懸念されています。

プラスチックごみ汚染に対処するため、2022年に国連環境総会で「国際プラスチック条約」の策定することが承認され、2024年までに条約案を完成させる予定でした。11月、政府間交渉委員会が開催されましたが合意に至っていません。

このまま何の規制もされなければ、不適切な処理で環境中へ流出する量も大幅に増える恐れがあります。2040年の川や海へのプラスチックごみの蓄積量は約3億トンにもなると見込まれています。一刻も早い条約の成立が望まれます。

一人ひとりがプラスチックをゴミにしないことが大切です。でも現実はそのようではないからプラスチックゴミが海に流れ込む前に今月もまたゴミを拾います。



福津市議会議員 (豆田ゆうこ)

